

まちのわだい

Town Topics

歴史を肌で感じて

旧江連用水分水溝宮裏両樋国登録文化財記念ウォーキング 3月29日

宗任神社の真裏にある「旧江連用水分水溝宮裏両樋」が当市で初めて国有有形文化財に登録されたことを受けて、市内で活動する観光ボランティアガイド「下妻いいとこ案内人の会」が記念ウォーキングを開催しました。

記念ウォーキングは、午前と午後の計2回行われ、市内外から33人が参加。市役所千代川庁舎を発着点に、「宗道河岸」などの名所・旧跡を回る約4キロの行程で、宮裏両樋では3月26日の正式登録により文化庁から交付された登録プレートが特別公開されました。

姉妹で参加し、かつての街並みの写真と現在を見比べながら歩いた飯島さんと柴さん(共に60代)は「歩きながら説明を聞いていると生まれ住んでいた場所なのに、知らないことが多くあると感じた。またイベントがあったら友達を誘って参加したい」と笑顔で話してくれました。

文化庁から交付された登録プレート



宮裏両樋で案内人の説明を受ける参加者

勇壮な武者行列、圧巻の火縄銃演武

第9回多賀谷時代まつり 4月12日



甲冑姿で勇壮に行進する火縄銃砲隊

今から約500年前に下妻を拠点に活躍していた戦国武将・多賀谷氏にちなんだ「多賀谷時代まつり」が多賀谷城跡公園で開かれ、市内外から約4,500人が訪れました。

まつりは、武者大名行列が勇壮な戦国時代を再現。川越藩火縄銃鉄砲隊保存会による砲術演武ではすさまじい銃声が会場に響き渡りました。火縄銃を初めて見たという成田鴻さん(下妻小4年)は「心臓まで響くほど大きな音でびっくりした」と話し、家族4人で仲良くまつりを楽しんでいました。

特設ステージでは、おはやしやフラダンス、県警音楽隊による演奏などが行われ、県警音楽隊で下妻市出身の國府田美佳隊員は、「地元の人に聴いてもらえてうれしい」と笑顔でした。公園周辺では万燈神輿や山車も練り歩き、まつりを盛り上げました。



満開の桜の下、「砂沼一周歩こう会」でスタンプを集める小学生たち

満開の桜がお出迎え

第44回下妻砂沼桜まつり 4月5日

桜が満開を迎えた砂沼湖畔で、恒例の「下妻砂沼桜まつり」が開かれ、小雨交じりの中、観桜苑と砂沼南岸の特設会場に約1,500人が来場しました。

砂沼南岸会場では、ものまねやマジックショー、おはよしの演奏などが披露されました。観桜苑会場では、sanumaスローマートと題したマルシェが人気を集め、午前中でランチ類が売り切れる盛況ぶりを見せました。

下妻市商工会青年部が主催する「砂沼一周歩こう会」には385人が参加。砂沼の周囲6キロの遊歩道に設けられた3箇所のチェックポイント回りながら満開の桜を楽しんでいました。

満開の花畑を期待して

小貝川ふれあい公園花畑除草作業

「小貝川フラワーフェスティバル」に向けてきれいな花を咲かせようと、小貝川ふれあい公園の花畑で、除草作業が行われました。

地元自治会や市内企業、ボランティア団体などから約600人が参加した3月14日の除草作業に続いて2回目となる今回は、4月中旬に各団体がそれぞれ作業を行いました。

花畑を管理する小貝川ふれあい花の会の塚田宏治会長は「今年のポピーは、発育が順調」と笑顔。5月下旬には3.2ヘクタールの広大な花畑一面に、300万本の色鮮やかなポピーやキンセンカが期待されます。

5月24日(日)には、同花畑を会場に「小貝川フラワーフェスティバル2015」が開催されます。



ポピーの新芽と雑草を丁寧に見分けながら手作業で抜いていきました(4月18日)



名前を呼ばれ、元気に返事ができました(上妻小学校)

期待を胸に新たな一歩

市内小中学校入学式 4月6日

市内小中学校で入学式が行われ、9小学校で378人、3中学校で398人の新1年生が校門をくぐりました。

このうち、上妻小学校では新1年生48人が上級生と手をつないで体育館に入場。保護者や地域住民、学校関係者の歓迎を受けました。新入児呼名では、担任教諭から名前を呼ばれると元気に「はい」と返事をしていました。

下妻中学校では、201人の新入生を前に生徒会長の菊池由良さん(3年)が「大人に成長していく過程で多くのことを学び、勉強して、私たちと一緒に下妻中学校の新しい伝統をつくっていきましょう」と歓迎のことばを述べ、在校生全員で声をそろえて合唱曲「大切なもの」や校歌を披露しました。

新1年生たちは、期待を胸に新たな一歩を踏み出しました。



在校生から歓迎を受ける新中学1年生(下妻中学校)

鬼怒川河川敷にこいのぼり悠々と

鬼怒川フラワーラインこいのぼり設置作業 4月19日

参加者総出でワイヤーロープを巻き上げ、こいのぼりを上げました

鬼怒フラワーライン(大形橋上流左岸河川敷)に、こいのぼりが登場しました。同河川敷を管理する花と一万人の会が市民等に設置作業の協力を呼び掛け、毎年5月に開催される「花とふれあいまつり」に合わせて平成16年から続けています。

ワイヤーロープで吊り上げられた75匹のこいのぼりは、鬼怒川に並行して、花畑を縦断するように約200メートルにわたって悠々と泳ぎ出しました。

同会の須藤洋一副会長は「近年、こいのぼりを上げる家庭が少なくなってきているので、この場所を見て少しでも楽しんでもらえたらうれしい」と来場を呼び掛けました。

5月17日(日)には同河川敷で、色鮮やかなポピーが咲き誇る中、「花とふれあいまつり」「鬼怒川流域交流Eボート大会」が同日開催されます。